

——ゲゲゲの女房のふるさと(鳥根県安来市)^{やすき}の鳥根総合福祉専門学校——

学校と学生が、地域・住民にとけこむ

福祉専門学校のチャレンジ



鳥根県安来市広瀬町(旧広瀬町)に、卒業生のほとんどが県内に残って社会福祉の仕事に就いているという福祉専門学校があります。学校法人広瀬学院鳥根総合福祉専門学校(浜岡政好 理事長)です。現在の安来市に合併する前、旧広瀬町は高い高齢化率のなか、地元で活動する福祉専門職の養成を町の単独事業として準備することにしました。今から15年前のことです。

そして97年に学校を開校し、地域・行政・学校が一体になった活動が展開されています。その一端をグラビアで紹介します。(写真・文 下野祇園)



田植え

地域交流事業の一環として、広瀬町比田老人クラブ連合会など地域の方々の協力を得て行う毎年恒例の田植え体験。秋の収穫祭では地域のみなさんと一緒に新米のおにぎりを頂きます。



大もみじ救出作戦

戦国時代に勢力を誇った尼子氏の居城があった月山山頂がっさんに500年にもわたって根を張る大もみじ。その根が土砂の流出によって風雨にさらされるため、山頂へ土を運びます。

大もみじ救出作戦記念撮影

砂袋を運び終わり、記念撮影。広瀬町から島根半島が一望できる景色の素晴らしさと、心地よい汗を流した満足感とで自然と笑顔がこぼれます。

(2~4頁 写真・文 余村望)



“大もみじ救出作戦” ~月山山頂環境整備~

主催 出雲広瀬ライオンズクラブ 協賛 安来市安来市観光協会 広島支社 広島総合福祉専門学校

●特集● 地域に根をはる福祉専門学校

ゲゲゲの女房のふるさと

島根県安来市の島根総合福祉専門学校を訪ねて

【座談会】西 高広／余村 望／堅田 知佐 8

在校生（介護福祉士科2年生）3名に聞きました

藤井 俊輔／岸本 剛史／山根 賢大 25

●トピックス●

◆食と暮らしシリーズ◆まちの酒屋さんが語る「営業と暮らし」 30
生活保護の有期化で受給者を追いつめないで！

—ある生活保護母子家庭を訪ねて— 34

第16回社会福祉研究交流集会in東京 38

●連載●

フォーラム 人権保障の障害者施策をめざして 吉本 哲夫 46

自立を求め続けた41年 地域で暮らす 原 静子 48

東桃谷幼児の園 街角の保育園 林 綾子 50

地域とのつながりを生かして

相談室の窓から 青木 道忠 52

自分を受け止め、理解しようとしてくれる人

社会科学の窓から見える 社会福祉ひろば 鍋谷 州春 54

1970年代創刊—同名の、三つの『福祉のひろば』

わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」 早川 一光 56

私の地域医療（その15）

よりあって おりあって—宅老所よりあい物語— 下村恵美子 58

ドイツ訪問（その3） 清水 玲子 60

育つ風景 年長クラスの保育

落合健二のニュース私考 落合 健二 62

鳩山さん、なぜ踏んばらなかったのですか

映画案内 『トウキョウソナタ』 吉村 英夫 64

現代の貧困を訪ねて 生田 武志 66

尼崎での襲撃事件とマイノリティ問題に関する授業

海外社会保障事情 権 順浩 68

韓国における老人長期療養保険制度の動向

私の研究ノート ト라우マからの成長の可能性 開 浩一 70

ホームレスから日本を見れば ありむら潜 72

花咲け！男やもめ 川口モトコ 74

バリアフリーな社会をめざして

CAFE「CASA」プロジェクト 奥 尚子 75

今月の本棚 29／みんなのポスト 44／ことばで遊ぼう！ 73／

福祉の動き 76

●グラビア● ～ゲゲゲの女房のふるさと（島根県安来市）の島根総合福祉専門学校～
学校と学生が、地域・住民にとけこむ

●表紙の作品●

神門やすこ



●カット●

川本 浩・田上明子

核廃絶と高齢者権利条約 採択に向けて

日本高齢者NGO会議代表 井上 英夫さん

二〇一〇年五月三日、上坪陽議長をはじめとする日本高齢者NGO会議代表団の一行二〇名は、前日のNPT（核不拡散条約）再検討会議へ向けた「核兵器のない世界のための国際行動デー」の平和・核廃絶デモの余韻の残るニューヨークの国連本部に、ローズマリー・レインさんを訪ねました。

レインさんは、国連の「高齢者の権利条約」の策定にあたる高齢化に関する政策部門の責任者です。私たちはレインさんに、潘基文国連事務総長宛ての要請文を手渡し、欲談しました。アジアから初めての事務総長は前日、NGOの開催した平和集會に出席、核廃絶に向けた実に感動的な演説をしてくれました。

事務総長宛ての要請文の要旨は、以下の通りです。

——国連は、一九四八年に世界人権宣言を発し、一九六六年の国際人権規約により普遍的な人権の保障を条約化した。さらに固有の人権保障条約として一九六五年人種差別撤廃条約、一九七九年女性差別撤廃条約、一九八九年子どもの権利条約、一九九〇年移住労働者・家族の権利条約を、そして、二一世紀に入り、二〇〇六年には障害のある人の権利条約を国連総会で採択し、残されたのは「高齢者の権利条約」となった。

私たちは、日本の高齢者の人権保障の状態はもちろん、急速に進む世界の高齢化の状況、高齢者の人権状況に鑑みて二一世紀の人類の挑戦として最重要な課題の一つが、高齢者の人権保障であると考える。したがって、私たちは、高齢者のための人権を保障するための条約を制定していただきたいと要望するものである。

その際は、一九九一年の国連の「高齢者原則」そして「国際行動計画二〇〇二」が基礎となるが、日本の高齢者運動の積み重ねてきた高齢者憲章等の成果も参考にしていただきたい。

これに対しレインさんは、「今年一二月の国連総會に高齢者の人権保障に関する決議を



いのうえ ひでお

1947年生まれ。金沢大学法学系教授、大学院人間社会環境研究科長。専門分野は社会保障法、福祉政策論。日本社会保障法学会代表理事、厚生省ハンセン病問題検討委員会長等を歴任。現在、全国老人福祉問題研究会会長、高齢者運動基金理事、金沢市障害者施策推進協議会会長、介護保険運営協議会苦情等専門部会会長、社会福祉審議会委員、ボランティア大学校理事等。病気、障害、年齢などにより「固有のニーズ」をもつ人々の人権保障に重点をおいた仕事をしている。編著書に『障害をもつ人々と参政権』（法律文化社、93年）、『高齢化への人類の挑戦』（萌文社、03年）、『若者の雇用・社会保障』（日本評論社、08年）、『患者の言い分と健康権』（新日本出版社、09年）など。

提案するための準備を進めており、そのため日本の高齢者のおかれている実態についてのデータ、資料が欲しい」と言われました。とくに介護保険について興味を示し、日本政府からの情報は全くないということでしたので、介護保険が高齢者、国民の間に安心を保障するよりも、焼死事件、介護殺人、心中事件などの根源となり、不安を増大させていることを説明しました。

「条約制定は長い過程になるが、日本政府の影響力は大きい。ぜひ政府を動かしてほしい」と逆に要請されました。私たちNGOも、直接国連への情報提供活動を強めると同時に、日本政府に社会保障の改悪を止めさせ、高齢者の人権保障のために国連に条約採択を働きかけるよう迫る運動を展開することの必要性を痛感しました。

その後、世界最大の高齢者組織、全米退職者協会AARPを訪問し、国際関係部門の責任者ジェシカ・フランクさん他三名の幹部とお会いし、歓待されました。ここでも日本の社会保障と高齢者の人権侵害・剥奪の深刻な実態が知られていないので、説明しましたが、皆さん大変驚いていました。結果として高齢者権利条約策定について協力していくことで一致しました。

日本高齢者NGO会議は一九九八年に結成されましたが、国際連合のNGOとして高齢者の人権保障のためにさまざまな運動を展開しています。とくに、中国、韓国、モンゴルをはじめアジアの人々と交流を深め（今年も、第九回国際高齢者文化祭を中国・海南省で開催します）、二〇〇二年のマドリッドでの国連の第二回高齢化国際会議には、一四〇人の代表団を派遣しました。その延長としての今回の活動です。

核廃絶・平和と高齢者の人権保障は、表裏一体であることを痛感し、行動したニューヨークでした。

（国連事務総長宛要請文等の資料は総合社会福祉研究所ホームページを「」覧下やご。 <http://www.sosyaken.jp>）

特 集

地域に根をはる福祉専門学校

ゲゲゲの女房のふるさと
島根県安来市の島根総合福祉専門学校を訪ねて

2010年4月27日、小雨の降るなか、島根県東部の安来市にある学校法人広瀬学院島根総合福祉専門学校を訪ねました。1997年に旧広瀬町の町立の福祉専門学校として誕生し、その後、民営化し、開設当初は介護福祉士科単科だったのを2004年からは児童福祉科も併設しました。

今回の特集では、地方にある福祉専門学校が地域住民の生活、行政、福祉関係者とのネットワークを意識しながら学校運営に奮闘する姿、教員たちと学生たちの生活や希望、そして実習や学習のなかで体験した“人として生きる”ことに向き合うことへのこだわりや思い、利用者からの感謝の言葉の重みの受け止めなどを発信します。
(編集主幹)

● 出席者 ●

校長 にし たかひろ 西高広さん 副校長 よむら のぞむ 余村望さん 介護福祉科科长 かたたち き 堅田知佐さん

地元の福祉人材は地元で育てる

調に若者の地元定着が進んでいる
と思っっています。

全国で三番目、町立として

スタート

開設当時の理念や意図と、一
四年目を迎えてどう変わってきた
のか、お話しください。

余村 島根総合福祉専門学校の開
設は一九九七年です。平成の大合
併を機に市町村合併し、二〇〇四

年一〇月から安来市になりました
が、本校を開設したときは広瀬町
でした。中山間地に位置し過疎化

が進む町で、一つは若者の定住対
策、もう一つは将来にわたって福
祉の人材確保が不可欠である、と

いう二つの目的から、福祉専門学
校の開設を広瀬町総合振興計画の
なかに組み込みました。

当時は町おこしでいろいろな施
設をつくることが大流行しました
が、広瀬町では人材育成にお金を
かける、という方向性が明確にさ
れていました。

現在、相当数の本校卒業生が安
来市内で働いています。卒業生が
地元で事業を起こし、小規模多機
能施設やデイサービスなどを展開
しているケースもあり、比較的順

開設当時は、広瀬町立というか
たちでスタートしました。公立の
福祉専門学校としては愛知県と北
海道に続いて三番目でした。本校
の設立と運営に関わってこられた
大阪健康福祉短期大学の故・横田
昌子先生も、大阪のような都会と
はまた違う人材育成モデルを想定
しておられたと思います。都会に
おける福祉人材育成と福祉実践、
そして高齢化日本一が続いた島根
県ではどういった人材育成と実践
ができるのか、対比的に見ておら
れたのだと思います。学校開設に



余村 望さん

あたってはハード面はすべて町が用意し、運営を大阪のあおば福祉会が行うことで協定が交わされ、それを原則としました。

安来市との合併で

本格的に民営化

余村 その後、広瀬町は二〇〇一年に学校法人広瀬学園を設立し、学校は民営化されました。とはいえ、理事長には当時の町長が就任しましたので、民営化によって町の責任がなくなっただけではありませんでした。しかし、広瀬町はもとより、合併した安来市も財政的に厳しい自治体です。

合併を機に「民間だから自己責任で運営しなさい」となりました。安来市の言い分は、広瀬町があお

ば福祉会に運営協力を請願し、本校を設立したときの考え方とは全く違います。完全な民間の専門学校にすり替わってしまいました。

二〇〇五年度からは、行政サイドにとつては民間の一学校法人としての福祉人材養成専門学校という方針が定着しました。当局の学校運営に対する関わり方、地域の将来をどうしていくのか、福祉人材をどうしていくのか、という当初の広瀬町が持っていたようなビジョンは希薄になったという印象を持っています。

否応なく、市と法人との対等平等の関係についての解釈の問題は長期的に見ていくこととして、改めて市に依存しすぎない高い質の人材育成の組織をつくっていく必

要があると、若干方向転換をしてきたというのが二〇〇五年度以降です。

九割以上が

地元からの

入学

——卒業後の就職状況や、学生の実態はどうですか？

余村 当初から入学生は地元が九割以上です。エリアは地元である安来市、隣の松江市、県境

安来市の人口 平成22年度人口統計表

年 月	世帯数	住民基本台帳人口			年少者(14歳以下)		高齢者(65歳以上)	
		総数	男	女	人口数	%	人口数	%
22年4月末	13,984	42,824	20,451	22,373	5,486	12.81	12,775	29.83